

ドイツ北部、ハンブルク
北の港町に灯る、小さな希望

北のともいび

ノイエンガンメ強制収容所とブレンファーザー・ダムの子どもたち

—— もう、ただ可哀想なだけの
子どもたちじゃない。

撮影・監督：東 志津
(「花の夢-ある中国残留婦人-」「美しいひと」)

語り：吉岡 秀隆

音楽：阿部 海太郎

音響デザイン：井上 久美子

題字：大竹 亜希子

日本語字幕：吉川 美奈子

監修：石田 勇治 (東京大学大学院教授)

2022年/日本/111分/カラー/ステレオ

日本語・ドイツ語・英語

製作・配給：S.Aプロダクション

アウシュヴィッツ強制収容所から送られてきた20名のユダヤ人の子どもたちと、
時代を超えて、彼らの悲劇と向き合い続ける人々の姿を静かに描く長編ドキュメンタリー

過酷な運命に翻弄された、
20人の子どもたち。

“私たちが忘れないで—”



INTRODUCTION

ドイツ第二の都市、ハンブルク。世界有数の港湾都市として知られるこの町の郊外に、かつてノイエンガンメ強制収容所がありました。第二次世界大戦勃発の前年（1938年）、ナチ・ドイツによって設置された強制収容所のひとつで、ナチスの迫害を受けたユダヤ人や捕虜、政治犯など、1945年の終戦までの間におよそ10万人の人々が収容されました。1944年11月28日。ここに、アウシュヴィッツ強制収容所から20人の子どもたちが送られてきます。収容所で親を失い孤児となった子や、家族と引き離されて連れてこられた5歳から12歳の10人の男の子と、10人の女の子。フランス、イタリア、オランダ、ポーランド、スロヴァキアと、生まれた国は様々でしたが、皆、ユダヤ人の子どもたちでした。彼らは、“結核の人体実験”のために集められた子どもたちだったのです。



—— 大切なのは 考え続けること、そして、忘れないこと

過酷な実験で衰弱した子どもたちは、ドイツの敗戦が迫る1945年4月20日の夜、ナチ親衛隊によって殺害されます。「人体実験」という非人道的な行為の“証拠”を残しておくわけにはいかなかったのです。廃墟となった小学校、“ブレンプファー・ダム”の暗い地下室で、誰にも知られずこの世から姿を消された20人の子どもたち。彼らの存在は、戦後、長い間、世間に知られることはありませんでした。時代が変わり、この惨劇に光が当てられるようになったのは、1970年代の末頃から。ある一人のドイツ人ジャーナリストが

発表した、子どもたちについてのルポルタージュがきっかけでした。現在、ノイエンガンメ強制収容所とブレンプファー・ダムは記念館へと姿を変え、多くの見学者や研究者を受け入れています。耐え難い運命の犠牲となった20人の子どもたちと、彼らの死を忘れまいと行動するドイツ、ヨーロッパの人々。死者と生者との出会いから生まれたのは、未来を照らす小さな希望でした。世界がどんなに変わっても、人間が決して手放してはいけないう大切なこととは何か—問い続ける人々の姿を、ハンブルクの美しい風景とともに描く長編ドキュメンタリーです。



北のともいび

語り：吉岡 秀隆
音楽：阿部 海太郎
音響デザイン：井上 久美子
題字：大竹 亜希子
日本語字幕：吉川 美奈子
監修：石田 勇治（東京大学大学院教授）
撮影・監督：東 志津
（「花の夢 - ある中国残留婦人 -」「美しいひと」）
2022年／日本／110分／カラー／ステレオ
日本語・ドイツ語・英語
製作・配給：S.Aプロダクション

ドキュメンタリー映画「北のともいび」特別先行試写会 & 東志津監督 記念特別対談

2022年 6月24日(金) 17:00~19:30 開場 16:30 会場：東京大学駒場キャンパス I 18号館ホール
対談者：石田勇治（東京大学教授）



※要事前参加登録
(ECCS アカウント限定)

主催：東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター (DESK)
E-mail: desk@desk.cu-tokyo.ac.jp <http://www.desk.cu-tokyo.ac.jp/>



共催：グローバル地域研究機構 (IAGS)



7月23日(土)より
東京・新宿
K's cinema
ほか全国順次公開